

特定非営利活動法人
吉里吉里国

理事長 芳賀 正彦
事務局 松永 いづみ



設立の思い



津波であらゆるものが流されました。
最後の波が退いた後、街は消えていました。
見回すと山があった。集落の森だけは、震災前と同じ姿で残っていた。
「山がある。俺たちはやっていける！」
「森と共存しその恵みを受容する在り方を、
生き方を森が教えてくれる」
と念じました。
森が暮らしを立てる。
助けられた命を、遺してもらった人生を
森で活かそうと決めたのです。

任意団体設立 2011年5月 / 法人設立 2011年12月



復活の薪 第1章 がれきから薪へ



①集められたがれき ②斧を振り下ろして薪を生産 ③乾燥 ④出荷 ⑤設立時のメンバー

2011年5月～12月まで： 津波行方不明者の搜索活動や避難所での薪の生産販売活動を行い、延べ20名の避難所生活者の雇用を確保、瓦礫廃材処理は約50tとなった。

現在の活動 (1)

復活の森



15.2、15.4



地域の山々の森林保全管理を行います。手入れされずに放置されたままの荒廃した山を再生する森作りに取り組み、地域の安全維持、環境美化、海をも育む生態系を含む自然環境づくりを図ります。次世代へ引き継ぐための森林管理のため、病気にかかった木やこれ以上成長が望めない木のみを間伐し、森を復活させます。

復活の薪 第2章



12.2、12.8



復活の森事業から排出された低質間伐材から薪を生産し、販売します。薪の魅力や薪ストーブの展示、薪で炊いたお湯を体感できる普及活動を行い、地域内における「薪のある暮らし」を営む人々を増やし、持続できるライフスタイルの確立と薪文化の復活にも結びつけます。

人財育成



4.4



林業学校を開催し、失われつつある暮らしの伝統技術の普及・伝承を後継者育成を図ります。森林教室を開催し、豊かな自然の美しさ、厳しさ、森林資源の素晴らしさ大切さを学び、共存の暮らしを育む人材を育成します。これらを体感することで、これからもこの地域に住み続けたいという人材育成にもつながっています。

- ①光の入った森林 ②薪を積み上げて乾燥 ③薪を使った本格ピザ窯
④森林教室で馬搬の馬とふれあい ⑤ツリークライミング®体験会



現在の活動 (2) 内外交流促進

地域コミュニティの 活性化 「薪まつり」等の開催



薪まつりの様子 餅まきではなくピザまき

ここでは「薪」や「森林」に理解を深めるブースを設け、薪の魅力が体感できる場にもなっている。

被災し、仮設住宅での生活を経て今に至るが、引きこもりのままの人も少なくない。その人に立ち上がれと言うのは酷。「その人の分まで、亡くなった人たちの分まで、今生きている私たちがやればいい。」という思いが根底にある。



ボランティア・企業研修の受入れ

薪割り ボランティア



受入れの様子
薪ストーブが少なくなった現代では、薪割り作業は汗水流せる貴重な労働体験

参加者の声・本来の働くということについて考えるきっかけになった。いつもはデスクワークなので、薪割りができるか心配だった。斧を無心で振り下ろすと、気持ちがスッキリした。

震災講話会



芳賀理事長による震災体験の講話
生きることや働くことについて考える時間

参加者の声・津波の体験話から現在に至る思いが心に刺さった。当時の現地での活動をリアルに感じられた。恥じないような生き方ができているか、自分を見つめ直すきっかけにもなった。

エピソード

薪割りボランティアや企業研修参加者からの声

・薪割りは初めての体験でしたが、無心で薪を割っているととても心が落ち着いて気持ちがよかったです。（都内企業・男性）

・初めての薪割り。薪が一度で割れた時の感触が爽快でとても楽しかったです。（都内企業・男性）

・斧を持つということ自体が初めての経験でしっかりと割ることができるか不安がありましたが、実際割ることができると新鮮かつすっきりとした気分になりました。（都内企業・女性）

・自分がしていることが、必ずどこかの他人に繋がっているはず。その影響は短時間のみならず、長い間に続くと思えます。私たちの行動は、今後、この世界そして未来の住民たちにどのような影響があるのかを考えながら日々の生活を振り返っていきたいと思います。（都内企業・男性）

・震災時のお話を拝聴し、自分の仕事に対する意識が変わりました。新人で慣れないことも多く、日々の業務に追われるばかりでやりがいや誇りを見いだせずにいました。しかし、お話を拝聴し、日々の作業においても常に感謝の気持ちを持ち続けようと心を新たにしました。（都内企業・女性）

・テレビで見た被災地が実際にどうなっているか、どんな支援ができるかを考えたから参加してみました。実際に見てみると思ったよりも復興は遅く、また、被災地の方々が立ち直れないほどの辛い経験をしていたことがわかり、離れていた自分たちには計り知れないものだとわかりました。（高校生・男性）

・震災時の講話で特に印象に残っているのは、「本当に悲しい人を見た」という言葉で、芳賀さん自身も震災による被害をうけているので、自分以外の人々の気持ちを考え、さらにその人達のために行動を起こせるのは本当にすごいことだと思いました（高校生・男性）

・斧の扱いは命がけだということ、薪割りはものすごく体力のいるということがわかりました。実際僕は数日後まで筋肉痛が残りました。そんな重労働の末にやっとのことで大きな米袋いっぱい薪を詰めて800円程度だということにショックを受けました。（高校生・男性）



現在の活動 (3) 木材の活用

薪の第2の活用法として、また、薪にもできない枝部分や実の部分を活用した商品開発を行っています。

※当法人の林業は、住宅建材に使用できるような元気で立派な木には手をつけません。病気にかかった木や細く成長が見込めない木を間伐し、50年後100年後に立派な木々が立ち並ぶ森林づくりをしています。

薪のしおり



手作り木工品



左から 薪のしおり／輪切りのマグネット／枝のペン立て（木目部分イラスト可）／スマホ用ウッドスピーカー（上面イラスト可）
【すべての作品は、オリジナルデザインや貴社名を入れることができます】

木工品購入者の声

・柔らかい杉の手触りが落ち着く。
（しおり購入・女性）

・ひとつひとつ木目や色が違うのがいい。
（しおり購入・男性）

・これを見るたびに大槌を思い出しています。
透かして空を見上げると繋がっている気持ちになります。
（しおり購入・女性）

・集会の手土産品として購入しました。
袋を開けると杉の香りがして和やかな雰囲気になりました。
（しおり購入・男性）

・キッチンでスマホを置いて愛用している。電池が要らないのでどこにでも置けるのがいい。
（スピーカー購入・女性）



協働が可能な内容【具体例】

記念品製作

- ・ 貴社内でこの商品を販売、ロゴ入りコラボ商品を開発、販売 → 社員の環境意識の向上に、CSRの一環として・・・
- ・ 貴社の〇周年記念品を製作 → 取引先への年末年始のご挨拶の配布用に、営業の販促品として・・・
- ・ オリジナルデザインの薪のしおり、木工品など それぞれ1つ1,000円
(30個以上から注文可、ご注文～デザイン構成～発送まで約1ヵ月)
- ・ スマホ用室内スピーカー小サイズ 2,000円、大サイズ3,000円 ※電源不要、お持ちのスマホに対応して製作。
(お問い合わせいただき、在庫状況によっては即納品可。数量により数ヵ月いただくこともあります)

ボランティア・企業研修の受入れ

- ・ 薪割りボランティアの受入れ → 社会貢献活動の一環として、東日本大震災被災地ボランティア活動として・・・
- ・ 新人研修の受入れ → 「働く」「稼ぐ」「生きる」をテーマとしたワークショップを通して、社員研修として・・・
(受入料金 半日2万円～)

正会員(団体)・賛助会員(団体) 入会すると特典が得られます

吉里吉里国のサポーターになる = より広いエリアの森林保全整備活動が可能になる
= 自然環境の改善に貢献できる = 貴社のイメージアップに繋がります！

- ・ 会員の皆様には、年1回の活動報告書をお送りしています。
→ ご希望があれば、活動報告書及び当法人HPにて社名を記載いたします。もちろん、貴社のHPや広報物でも掲載可。
- ・ 貴社のオリジナル木工品はいかがですか？
→ 薪のしおり&木工品：オリジナルデザイン 1つ1,000円～のところ、団体会員価格（半額）で提供します。
→ スマホ用室内スピーカー：貴社のロゴやご希望のイラストや文字をお入れします。
- ・ 貴社の研修の場としてご活用ください！
→ 薪割り+震災講話（半日～1日） 通常受入れ価格3万円のところ団体会員価格（半額）で提供します。

